

2016/10/26

@オークラアクトシティホテル浜松

平成28年度私立短大教務担当者研修会

3つのポリシーの策定と公表に向けて

# 「ガイドライン」活用による 3つのポリシーの実質化

中央教育審議会大学分科会「大学教育部会」臨時委員

長崎短期大学

学長 安部 恵美子

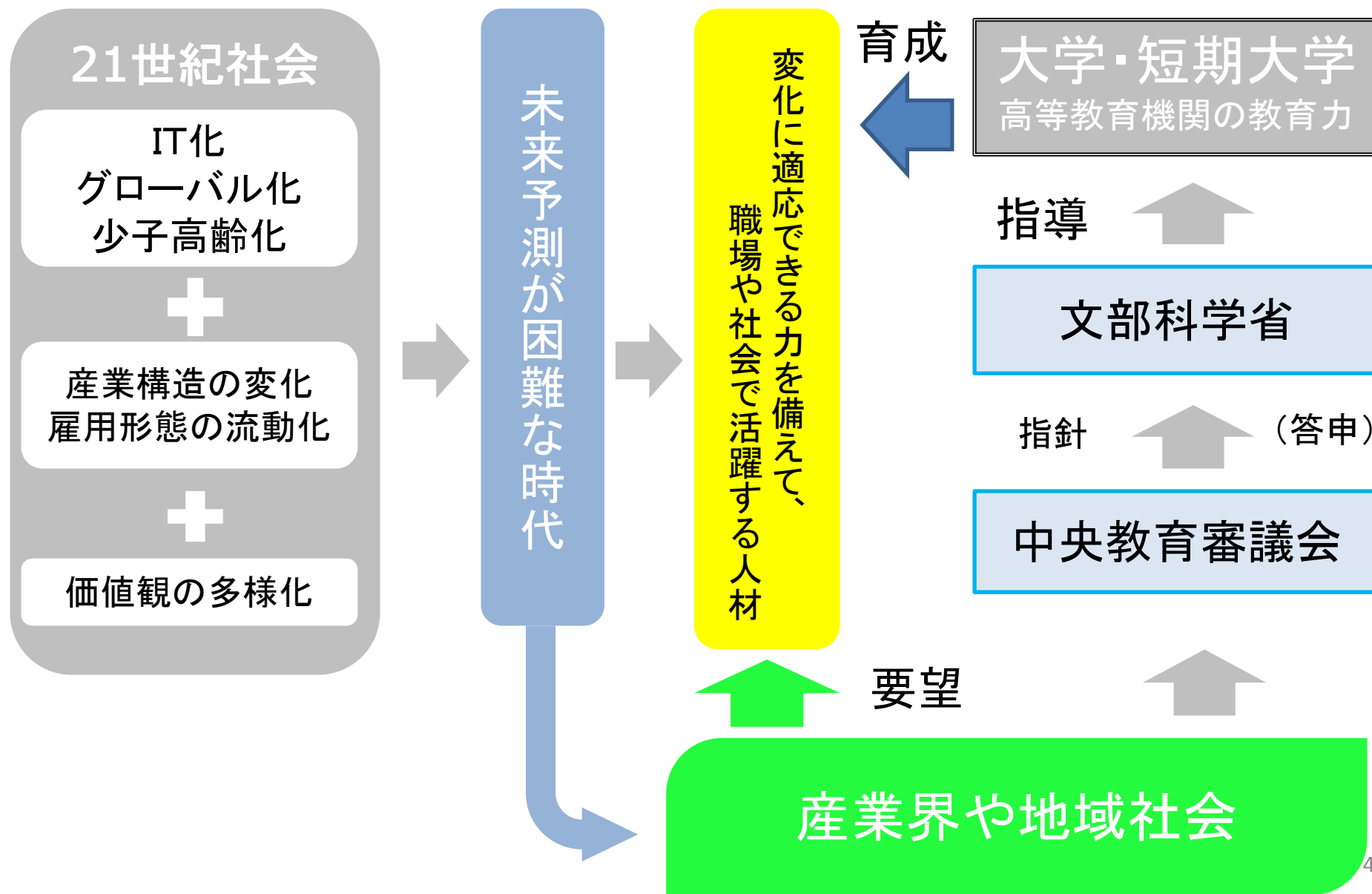
# 本日の内容

1. 制度改正の背景
2. 3つのポリシーに基づく  
大学教育改革の実現
3. 「ガイドライン」の活用法
4. まとめと課題

# 1. 制度改正の背景

- (1) 高等教育を取り巻く状況
- (2) 短期大学の状況
- (3) 3ポリシー策定までの流れ

# 1-1 高等教育を取り巻く状況



## 1-2 短期大学の状況(1)

- 高度成長期には女子に適した大学  
高等教育の普及に貢献
- 学生数のピークは、平成5年の53万人、  
90年代半ば以後の18歳人口の減少、女子の  
四大志向、一般事務職の採用減と非正規雇用化  
等が進む中、最大598校(H8年)あった短大は、  
209校 四大へ改組転換  
83校 募集停止 (H27年度まで)
- 短大数・学生数の減少は止まらず、学生数は  
最盛期の3割以下(127,836人)に激減

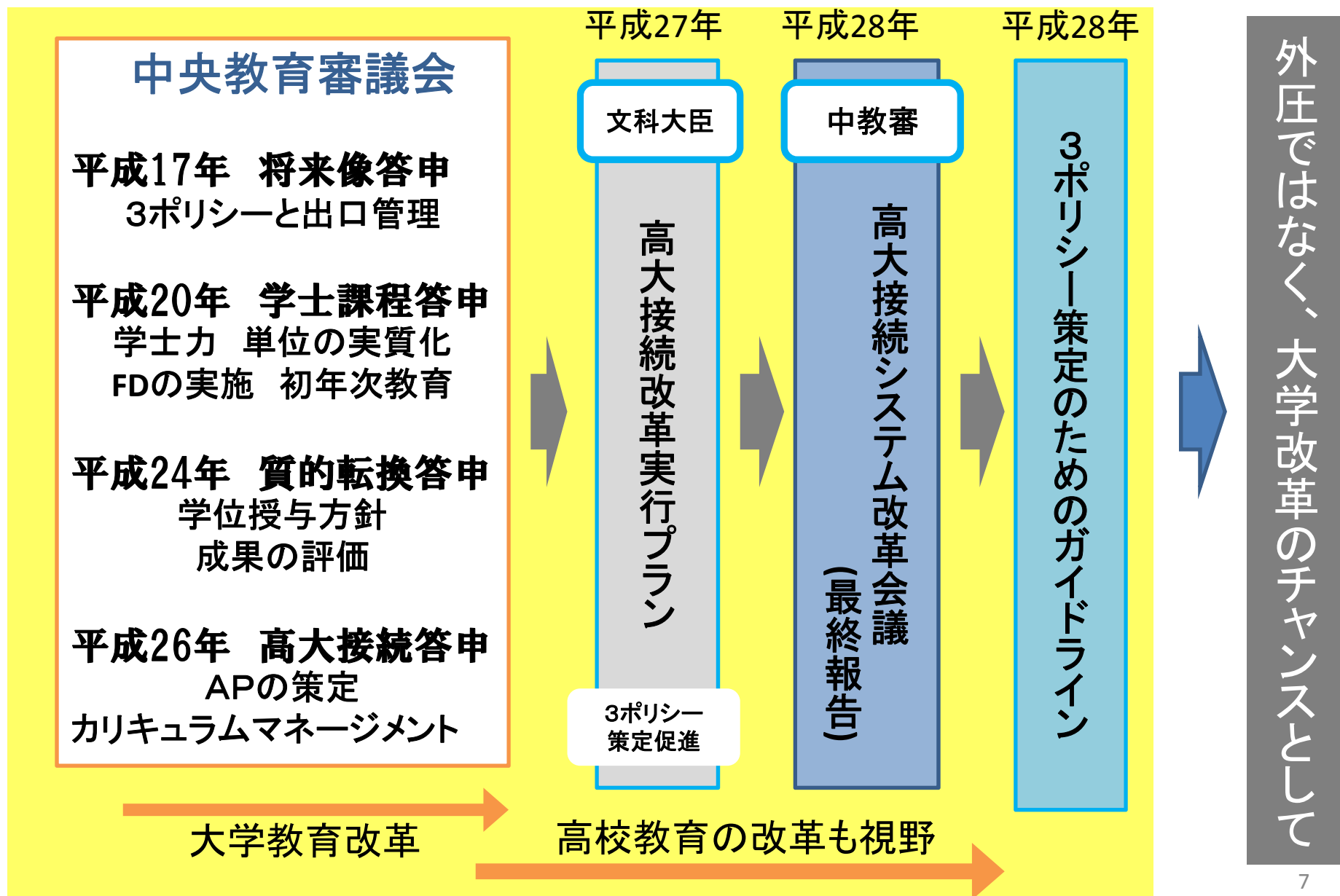
## 1-2 短期大学の状況(2)

- 公的セクターはわずか(国立0 公立17)、  
日本の短期高等教育の9割以上(315校)は、私学
- 入学定員500人未満が97.0%、入学定員100人  
未満が42校で、小規模校が大半
- 教育分野の学生が4割、幼稚園教諭・保育士の  
養成に強み
- 定員充足率90.6% 64.7%の短大は定員未充足、  
帰属収支差額マイナスの短大は50.4%

教育改革  
実行

1. 質の保証
2. 独自性のアピール

# 1-3 3ポリシー策定までの流れ



## 2. 3ポリシーにもとづく 大学改革の実現

- (1) 3ポリシーとは
- (2) 高大接続と3ポリシー
- (3) 見直しの必要性
- (4) イメージ図1(文科資料)
- (5) イメージ図2(文科資料)
- (6) 取組の時期に関する考え方  
(文科資料)



## 2-1 3ポリシーとは(1) 大学の決意表明

### ディプロマポリシー

理念に沿って大学が示す育成人材像を明確に示す

### カリキュラムポリシー

D P で掲げた能力育成をいかに行うかを明確に表現する

○C P の構成

★教育課程の編成 ★学修方法と学修過程 ★学修成果の評価法

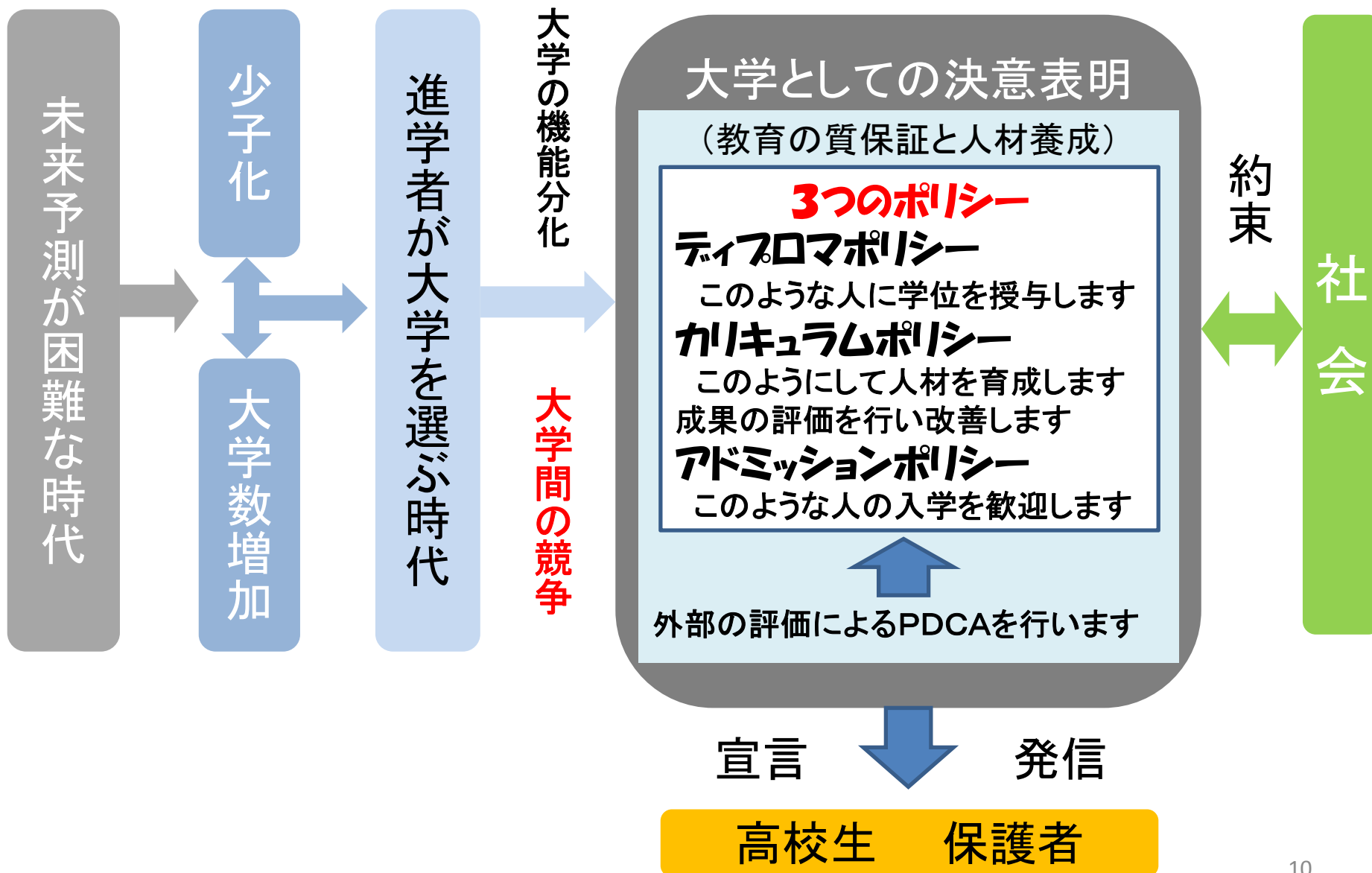
### アドミッションポリシー

D P と C P を踏まえ、入学前にどのような能力を身につけた学生を、  
また、大学で能力の育成に励むことのできる学生を、  
求めていることを分かりやすく表現する

○A P の内容

★学力の3要素に沿った求める学生像 ★適した選抜方法  
★多様な学生に対する配慮 ★入学前準備学習

## 2-1 3ポリシーとは (2)



## 2-2 高大接続改革と3ポリシー

### 高校教育改革

### 入試改革

### 大学教育改革

#### 高等学校

1. 教育課程の見直し
2. アクティブ・ラーニングによる授業改善
3. 教員の採用と研修に関する改革
4. 多面的評価の推進

学力定着の確認

高等学校基礎学力テスト(仮称)

入学者選抜法の見直し

大学入学希望者学力評価テスト(仮称)

学力の3要素を反映した  
アドミッションポリシー

一体的な3ポリシーを策定

#### 大学

1. カリキュラム構成の見直し
2. 能動的学修を重視する指導法
3. 学習時間増加の指導
4. 学修成果の評価の充実

「学力の3要素」を重視、達成度評価の開発

多様な入学者の力を向上

## 2-3 見直しの必要性

### 大学における作成状況

メンター・ポリシー 93.9%      カリキュラム・ポリシー 94.0%  
ミッション・ポリシー（AP） 99.6%

作成されては  
いるが・・・

抽象的で形式的な記述にとどまるもの、相互の関連性が意識されていないものも多い（ガイドラインより）

平成29年4月 学校教育法施行規則  
3つのポリシーを一貫性のあるもの  
として公表し、作成する義務

ガイドラインの作成

3ポリシーに基づく  
認証評価項目の追加

内部  
質保証

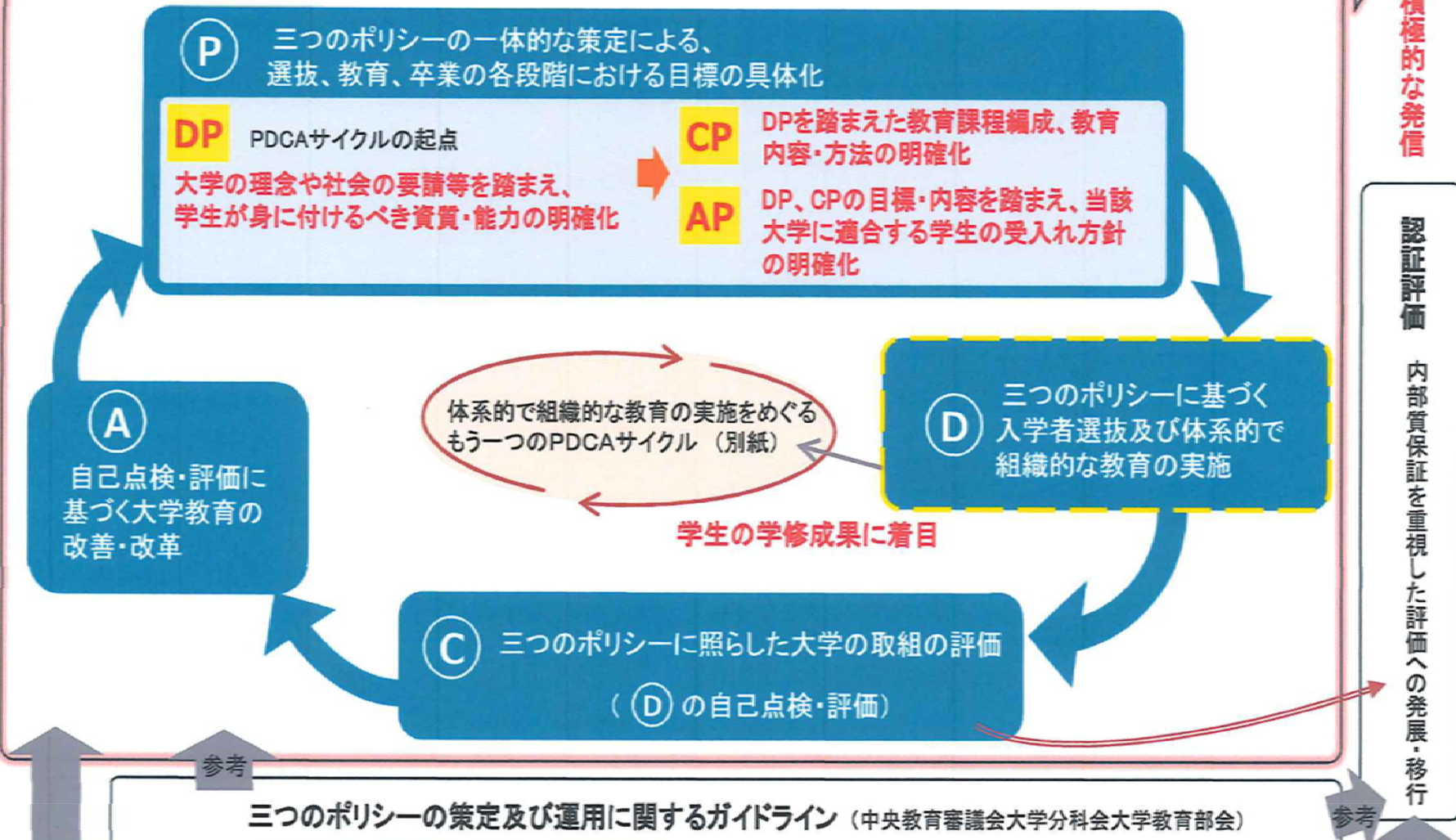
## 2-4 「三つのポリシー」に基づく大学教育改革の実現(イメージ)(案)

資料2-2

三つのポリシー … ディプロマ・ポリシー(DP)、カリキュラム・ポリシー(CP)、アドミッション・ポリシー(AP)

### ＜大学教育に関する内部質保証のPDCAサイクル＞

ポリシーの策定単位ごとに実施



省令改正 ① 三つのポリシーの策定・公表の義務付け  
(学校教育法施行規則)

省令改正 ② 三つのポリシーに基づく大学教育に対する認証評価項目の追加  
(学校教育法第一百条第二項に規定する基準を適用するに際して必要な細目を定める省令)

## 2-5 「三つのポリシー」に基づく大学教育改革の実現(イメージ)(案)

三つのポリシー … ディプロマ・ポリシー(DP)、カリキュラム・ポリシー(CP)、アドミッション・ポリシー(AP)

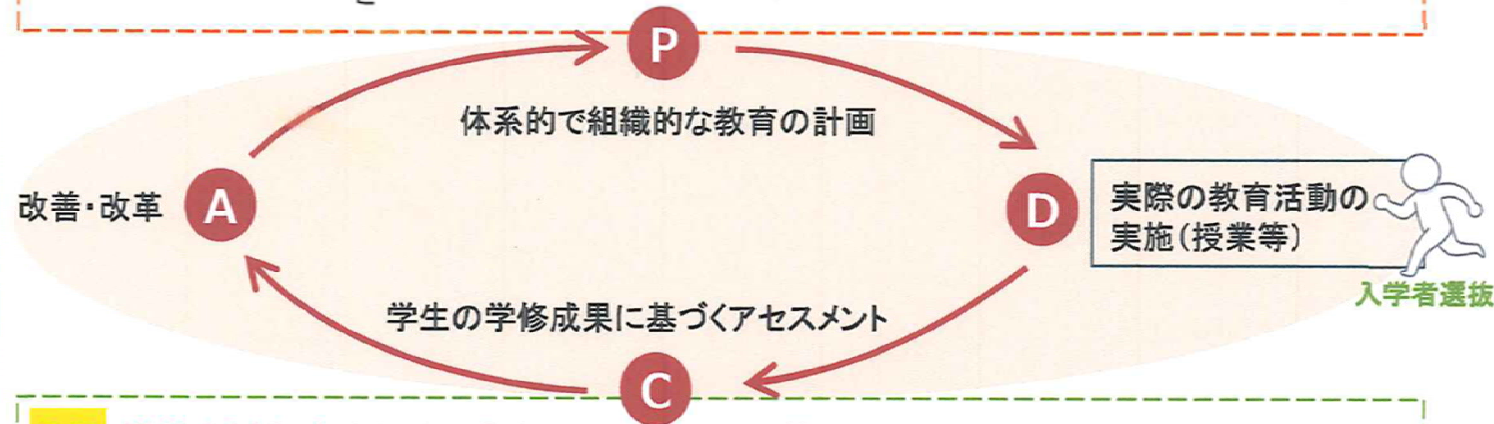
### 三つのポリシーに基づく入学者選抜及び体系的で組織的な教育の実施

<体系的で組織的な教育の実施をめぐるもう一つのPDCAサイクル>

**DP** 学修成果の目標 として機能

**CP** DPを実現するための教育課程編成・実施の方針 として機能

- ⇒ 具体的な取組例
- ・ DPの内容をカリキュラムとして構造化 (カリキュラム・マップ等の活用)
  - ・ 各授業科目の内容や学修方法等の提示 (シラバス等の活用)
  - ・ 各授業科目間の関係性の可視化 (履修系統図、ナンバリング等の活用) など



**DP** 学位を授与するための評価(アセスメント)基準 として機能

**CP** DPを実現するための学生の個々の学修成果の評価(アセスメント)の方針 として機能

- ⇒ 具体的な取組例
- ・ 各授業科目ごとの評価 (シラバス等に示された評価方法・基準による評価)
  - ・ カリキュラム全体における学修成果の評価を踏まえた学位授与 (卒業要件(必修・選択等)科目全体の修得状況に対する評価) など

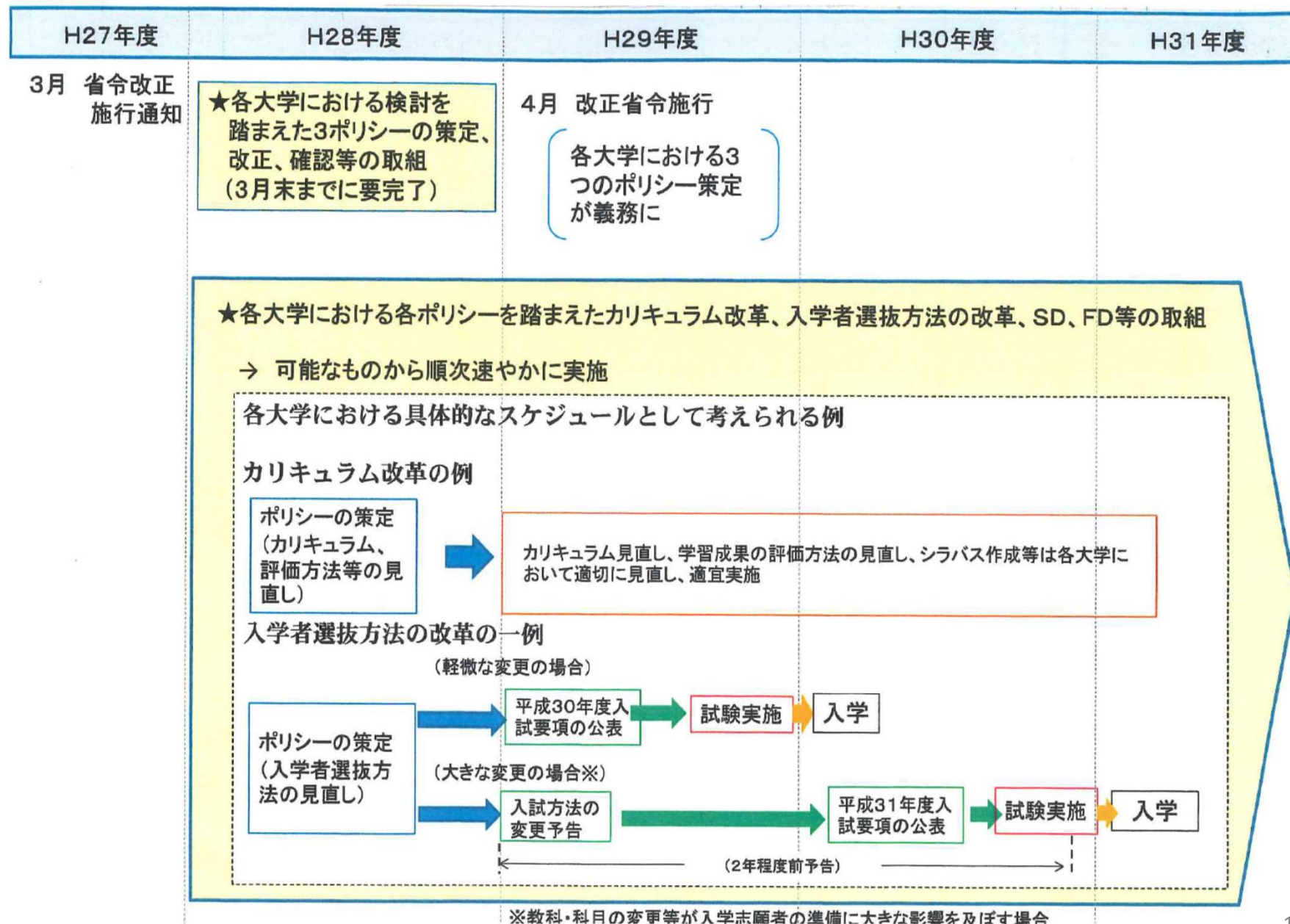
**AP**

DP、CPを踏まえた入学者受入れの方針

← 具体的な取組例

・ APを具現化するための適切な評価方法の活用  
 ・ 多様な背景を持つ学生の受入れに向けた多角的な選抜方法の工夫  
 など

## 2-6 取組の時期に関する考え方



# 3. ガイドラインの活用

(1) ガイドラインの概要(文科資料)

(2) 3ポリシー策定上の共有事項

(3) 3ポリシー策定上の留意点

(4) 3ポリシー策定の手順

—長崎短期大学を例として—



# 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドライン (概要)

三つのポリシーの策定・公表 ⇒ **＜大学教育のPDCAサイクルの確立＞**

資料 1-2

**大学教育の質的転換** : 生涯学び続け、主体的に考える力を持ち、未来を切り拓いていく人材を育成する大学教育の実現

**高等学校教育・大学教育・大学入学者選抜の一体的改革** : 大学教育の「入口」から「出口」までを一貫したものとして再構築し、広く社会に発信

## 卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

学生が身に付けるべき資質・能力の明確化  
＜PDCAサイクルの起点＞

各大学の教育理念を踏まえ、一貫性あるものとして策定

## 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)

体系的で組織的な教育活動の展開のための教育課程編成、  
教育内容・方法、学修成果の評価方法の明確化

## 入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

どのように入学者を受け入れるか、  
入学者に求める学力の明確化、入学者選抜方法の改善

**ガイドライン** : 各大学の建学の精神や強み・特色等を踏まえた自主的・自律的な三つのポリシーの策定と運用の参考指針

### ◆策定に当たっての留意事項

#### (1) 策定単位

・学位プログラム単位を基本とすることが望ましい(各大学で判断)

#### (2) 個別留意事項

##### (総論)

- ・相互の一貫性・整合性に留意
- ・多様な関係者に分かりやすく示し、大学内外に積極的に発信

##### (ディプロマ・ポリシー)

- ・「何ができるようになるか」に力点
- ・学生が身に付けるべき能力をできる限り具体的に示す

##### (カリキュラム・ポリシー)

- ・ディプロマ・ポリシーを踏まえ、学生の学修方法・学修課程、学修成果の評価の在り方を具体的に示す

##### (アドミッション・ポリシー)

- ・2つのポリシーを踏まえつつ、多様な学生を評価できるような入学者選抜の在り方についてできる限り具体的に示す

### ◆運用に当たっての留意事項

#### (1) 大学教育のPDCAサイクル

- ・三つのポリシーを起点とした大学教育に関する内部質保証の確立
- ・実際の教育活動における三つのポリシーに基づくPDCAサイクル

#### (2) 三つのポリシーに基づく教育の諸活動の実施

- ・三つのポリシーに基づき、適切な方法で入学者選抜を行う
- ・体系的で組織的な教育を展開し、学生の能動的な学修の充実を図る
- ・どのような評価の基準や方法に基づき大学として学位を授与したかについての説明責任を果たす

#### (3) 三つのポリシーに基づく自己点検・評価と改善、情報の発信

- ・策定単位ごと又は大学レベルで、各ポリシーに照らした取組の適切性についての自己点検・評価
- ・三つのポリシーに基づく教育の実績等を、分かりやすく積極的に情報公開

## 3-2 3ポリシーの策定上の共有事項

建学の精神や理念を基盤に **（他の短大との差別化）**

育成する人物像の明確化 **（アウトカムの可視化）**

合理的な教育システムに **（質保証）**

説得力のある評価システムを**（PDCAによる教育の進化）**

多様な高校生の受入れを **（円滑な高大接続）**

### 3-3 3ポリシー策定作業上の留意点

1. 全学ポリシーから教育課程ごとのポリシーの一貫性に留意する
2. ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの一体性と整合性を求める
3. アドミッション・ポリシーについては、他の2ポリシーとの整合性を持たせながらも、受入れる学生の多様性を損なわないよう配慮する
4. 「何ができるようになるか」に力点を置き、測定・検証に耐えられるように、「Can-Do」型の表現を用いる
5. 学力の3要素(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に多様な人々と協働して学ぶ態度)を踏まえる
6. 学長を中心に学内での周知徹底と基盤を整備する

高校生や保護者に分かりやすい内容と表現に

## 3-4 3ポリシー策定の手順

長崎短期大学を例として

# 3ポリシー策定の手順 <1. 策定前>

## 建学の精神・教育理念の確認

### 【建学の精神】

- 1) 高い知性と豊かな教養を持つこと
- 2) たくましい意志と健康な体を養うこと
- 3) 日本人の誇るべき徳性と品格の香り高さを身につけること

### 【教育理念】

師弟同行（学生と共にあり、共に学ぶ）

## 社会における大学の存在意義の明確化

長崎県北唯一の短期大学として、地域社会の発展に寄与する社会人の育成

## 育成する人物像、育成方法、受入れ学生像の具体化

地域で必要とされる職業人・社会人を、地域連携を加味した実践的な教養・専門教育課程で育成。高校までの幅広い知識を修得し、学ぶ意欲を持つ人を求める

## 評価組織(内部・外部)の立ち上げ

(内部)「大学改革委員会」

(外部)「Awesome Sasebo! Project 推進委員会」 「評価委員会」

# 3ポリシー策定の手順 <2. 策定中>

## 全学3ポリシーの策定

1. 建学の精神や教育理念を、ディプロマ・ポリシーに反映
2. 重視する教育の基本姿勢や教育方法の具体化
3. 受け入れたい学生像と選抜方法の具体化
4. 評価体制の構築と意見聴取

## 全学の教職員での共有

文言のチェックと納得

## 各学位(各学科)プログラムの3ポリシーの策定

1. 全学ポリシーとの一体性に留意
2. 各学科・専攻の特性を組み入れたポリシーの策定
3. 評価体制の構築と意見の聴取

## 各学位プログラムの3ポリシーの比較・検討

大学としての調整

# 3ポリシー策定の手順 <3. 策定後>

## 3ポリシー実施に向けた教育体制の構築

- カリキュラムマトリックス  
カリキュラムフローチャート      詳細な点検のための役割分担  
ナンバリング
- シラバスの調整と成果測定方法の具体化
- 授業評価  
在学時調査      学生(卒業生)の反応を聴取する方法の最適化  
卒業時調査  
卒業生調査

## 3ポリシーの策定と実施体制の周知徹底と共有

## 速やかなる社会への公表

## 4 まとめと課題

短期大学士課程の  
3ポリシーの特徴とは？

3ポリシーの見直しや  
評価をどのように行うか？

学内・学外への  
周知・徹底の方法は？

3ポリシーの明確化を  
教育の質保証のための  
エンジンに！

ご清聴ありがとうございました。



# 本学の 3ポリシー策定の工程と進捗

長崎短期大学  
大学改革委員長 陣内敦

全学FD研修会を開催 2016 9月1日・2日

本学の教育の原点から考える  
～変えなければならないこと、変わらないこと～

目的； 機関レベルおよび各学科レベルのチームとしての教育力の向上

◆ 3ポリシー策定を全学FD研修でおこなう意味

時間の効率が悪くても

できるかぎり全ての教員と職員でおこなう



- 自らの手によって作成することで、しっかりと認識できる
- 納得できるポリシーとカリキュラムが構築できる
- 機能するポリシーと目的を持ったカリキュラムが構築できる
- 機関、学科・専攻の全体方向と各教職員の役割が認識できる

## ◆FD研修 1日目

時間	内容	形式	場所	担当
9:00～10:00	3ポリシー策定の目的と工程 本日の研修の目標と日程	説明 質疑	全体会 会場	大学改革委員長
10:00～10:30	機関のポリシー(案)発表 学位プログラムポリシーの基準としてとらえる	発表 意見交換		学長
(10分)	休憩			
10:40～12:10	各学科専攻のディプロマ・ポリシー草案	グループワーク	各分科会 会場	各学科
(50分)	休憩			
13:00～13:40	各学科専攻のディプロマ・ポリシー(案) の発表報告 食物、保育、介護、国コ、専攻科	発表  意見交換	全体会 会場	各学科代表者
13:40～15:00	各学科専攻のディプロマ・ポリシー修正と カリキュラム・ポリシー草案	グループワーク	各分科会 会場	各学科
(10分)	休憩			
15:10～15:50	各学科専攻のカリキュラム・ポリシー(案) の発表報告 食物、保育、介護、国コ、専攻科	発表  意見交換	全体会 会場	各学科代表者
15:50～16:00	本日のふりかえり	意見交換		大学改革委員長
(16:00～16:20)	(ファシリテーター調整会議)	会議		大学改革委員長 ファシリテーター

## ◆FD研修 2日目

時間	内容	形式	場所	担当
9:00～9:15	2日目の研修内容についての説明	説明	全体会 会場	大学改革委員長
9:15～10:30	各学科専攻のカリキュラム・ポリシー修正と カリキュラム・マトリックス作成 (ディプロマ・ポリシーと科目の到達目標のひも付け) ※専任教員の担当科目(他学科の兼任科目を含む)は単 独でおこない、非常勤教員の科目は専任2名一組で 記入作業をおこなう	グループワーク 個人ワーク	各分科会 会場	各学科
(10分)	休憩			
10:40～12:10	カリキュラム・フローチャート作成 (カリキュラム・ポリシーと科目を関係付けた構成図)	グループワーク	各分科会 会場	各学科
(50分)	休憩			
13:00～13:30	総評	講義		学長
13:30～14:30	セメスター到達目標草案 (フローチャートの時系列に添付)	グループワーク	各分科会 会場	各学科
(10分)	休憩			
14:40～15:10	各学科のカリキュラム・マトリックス、カリキュラム・フロー チャート、セメスター到達目標(案)を相関した上で カリキュラム構成を考察	グループ ディスカッション	各分科会 会場	各学科
15:10～15:50	各学科のカリキュラム・マトリックス、カリキュラム・フロー チャート、セメスター到達目標(案)についての ディスカッションの内容報告 食物、保育、介護、国コ、専攻科	発表	全体会 会場	各学科代表者
15:50～16:00	今後の取り組みについて	説明		大学改革委員長

### 3 ポリシー策定に係る全学FD研修会 事後アンケート

問1	3 意義があった	2 どちらとも言えない	1 意義はなかった		
この研修の参加はあなたにとって意義がありましたか。	92%	8%	0%		
問2	A 教(職)員間の交流になった	B 大学や学科の方針が理解できた	C 自らの手でポリシーを策定している実感があった	D カリキュラムの理解ができた	E 自らの手でカリキュラムを構築している実感があった
どのようなところに意義を感じましたか。(複数回答可)	69%	69%	54%	46%	31%
問3	a 期日や時間の設定について	b 研修の目的について	c 研修の段取りや内容について		
不都合なところがありましたか。(複数回答可)	46%	0%	23%		

問4 自由に感想を書いてください。

### 3ポリシー策定段階で新たに生じた観点や問題点

ポリシーを理解していくことで、短大のあり方、教員のあり方について考える機会を持つことができた。

マトリックスの集計グラフの形やフローチャートの構造に各学科の特徴が出ていて興味深かった。

同じ目標を持った専攻内の教員間にもそれぞれ違った視点があることが理解できた。

2年間の連続した学びや教科間の繋がりを再確認することができた。

3ポリが身近に感じられ、担当科目に反映させていく意識がでてきた。

マトリックスからフローチャートへまとめ上げていく具体的な作業は難しかった。特にCPは、各学科担当の多様な考えや思いが反映されているため、時間を要すると感じた。

あまりにも完璧な人物に育て上げようとし、理想をならべ言葉いじりに終わってしまわないよう常に注意を払っていく必要を感じた。

10月4日～14日（全6回）

各専攻・コースの3ポリ策定に関する代表者会議を開催

食物科栄養士コース 食物科製菓コース 保育学科保育専攻  
保育学科介護福祉専攻 国際コミュニケーション学科 専攻科保育専攻

各学科の専攻・コースの代表者 ⇄ 学長 大学改革委員長 事務局大学改革担当

## 機関のポリシーと学位プログラムのポリシーの調整

～短期大学と各学科の専攻・コースの指標をどのような箱に揃えていくか～

～外部へ何を発信すべきか～

～機関と各学位プログラムが抱えている課題はなにか～

～教育課程をどのように改善していくか～

# 機関のポリシーと学位プログラムのポリシー

## 長崎短期大学

ディプロマポリシー

カリキュラムポリシー

アドミッションポリシー

## 各学科・専攻・コース・専攻科

ディプロマポリシー

カリキュラムポリシー

アドミッションポリシー

一体化を  
目指して  
作業中



### ◆ 3 ポリシー策定に関する大学改革の今後の取り組み

